

(1) 3組 「題材選定と支援の工夫」の実践

① 学級の実態

《全体的傾向》

小学部 3組は、5年生3名(男子1名、女子2名)6年生4名(男子3名、女子1名)で編成されている。発達段階は2歳前半から4歳前半の自我の充実から自制心の芽生えの段階の児童である。全体的には「対人関係」や「言語」「言語理解」の項目に落ち込みが見られる児童が多く、学習の展開には特に配慮が必要である。また、健康上の配慮が必要な児童、強いこだわりを示す児童、精神的な安定が優先される児童など様々な個性と実態を持つ学級集団である。また、体調の整いにくい児童もあり、全員がそろってリズムに沿った学校生活を送ることは難しい。しかし、生活年齢効果もあって、ほぼ全員が着席して学習に参加することができている。みんなで共通の話題を持って話し合いを進めたり、関わり合っ活動したりすることは難しいが、やり方のわかっている作業や製作活動には短時間であれば全員が、積極的に取り組むことができる。

《発達段階や障害からくる特徴》

自分のしたことについて、うまくできていなくても「上手だね」という評価を周りの人からもらうと、もう一度しようという意欲を持ちやすい。周りの人との関わりに関心を示しにくい児童が多く、自分の好きな活動は楽しんでするが、友だちと一緒に活動することを楽しんだり、協力してやりとげた喜びを誇ったりすることが少ない。そのため、自分の好きな活動以外に興味や関心が拮がりにくい。また、体調不良、強いこだわり、過敏な反応による精神の不安定などもあるため、7人がそろって一つの目標に向かって学習に参加していく状況をつくっていくことが難しい。

《楽しめている実態》

一人ひとりがそれぞれに好きな活動を持っている。例えば、ひらがなや簡単な漢字をなぞること、パソコンで遊ぶこと、紙を切ること、ぬり絵をすること、絵をかくこと、のりづけをすること、絵の具でぬることなどの活動では、少しは集中して取り組める。

以上のような学級の実態から、7人の児童が喜んで生き生きと取り組んでいける題材の選定にはかなりの工夫が必要である。

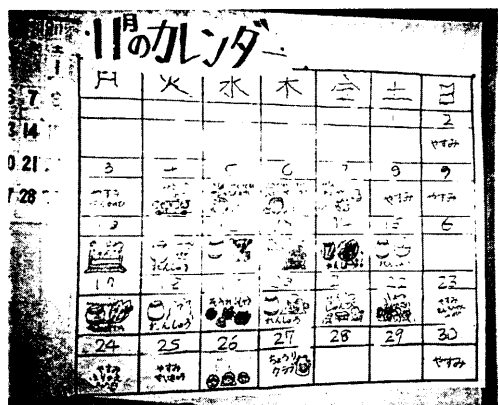
② 指導の方針

- ・みんなができること、楽しめること、得意なことを数多く取り入れた題材を選び、個に応じた支援をしていく。
- ・生活年齢と発達年齢を意識した題材の選定と支援の工夫をする。
- ・一人ひとりのできる活動を活かしながら、クラスとしての連帯感を高める。

③ 実践事例

- カレンダーづくり ～好きなことを活かし繰り返し取り組んだ実践として～
《ねらい》

- ・その月にはどんな行事や学習があるのかがわかり、見通しを持ちながら生活したり、自主的に活動に参加したり、学習や行事を楽しみに待ったりする。
- ・曜日、数字に親しみ、カレンダーの見方に慣れる。
- ・文字をなぞる、絵をぬる、切る、はる活動の中から自分で選択した活動を行い、みんなでその月のカレンダーを仕上げる。



11月のカレンダー

毎月、カレンダーを作っていることで、教師が実態に即した支援の工夫をすることができたことと、回数を重ねるにつれてやり方がわかってきたことで、しだいに積極的に取り組めるようになった。

表-7 カレンダーづくりにおける児童の実態、教師の支援、活動の様子

	児童の実態	教師の支援	活動の様子
I子	なぞり書き、かわいい絵のぬり絵、切るなどが好きである。ひらがなが少し読める。活動に集中する時間が短い。	いくつかの活動と学習内容がわかるかわいい絵を準備しておく。	いくつかの活動をする事と、かわいい絵をぬることで意欲的に活動に取り組めた。
O子	I子がする活動と同じ活動が好きである。ひらがなが読めず、線に沿ったなぞりも難しい。	I子がする活動と同じ活動を用意する。文字の形が認識できるように中抜き文字を準備する。	I子とともに喜んで活動した。自分からしたい活動を選んで取り組んだ。
G男	漢字に興味を持ち、大きめの文字をなぞるのが好きである。	曜日の文字を大きく書いて準備する。	見たらすぐにとりかかり、熱心に取り組んだ。
B男	なぞりが好きで、声かけがあれば、字数が多くても最後までできる。	ひらがなが少し多いカードを準備する。手が止まったら、次をするように声かけをする。	顔を見て「したい人」というと、手をあげて意志表示し、最後までできた。
E子	かわいい絵を切ることが好きである。曲線も切ることができる。活動に長時間集中して取り組むことができる。	休日のカードにハートのマークを書いておく。たくさん量を本児に任せる。	カードを見せると自分から「したい」と意志表示し、長時間、曲線をていねいに切り、満足した。
N男	数字の読み書きができる。なぞりは雑になるが作業が速い。カレンダーを見て、行事や日付を覚えるのが得意である。	11日から31日までのカードを準備する。また、毎日の学習予定を書いたカードを準備する。	顔を見て「したい人」というと、手をあげて意志表示し、活動量が多いにもかかわらず、手早く最後までできた。

D男	文字のなぞりが好きで、細かな文字でもなぞり、長時間取り組む。	毎日の学習内容を書いたカードをたくさん準備する。	カードを見せ「してね」というなぞりだした。長時間取り組み、最後までできた。
	7人とも自分の書いたカードをはる場所がわかりにくい。	台紙にカードと同じ文字を書き、自分で捜してはれるようにする。	教師が一つひとつ言わなくても自主的に活動できた。

○太鼓の取り組み ～劇づくりの中で太鼓の演奏をするまでの実践～

《ねらい》

11月下旬に行われた附養文化祭での小学部の劇の中で、各クラスの出し物として太鼓の演奏をする。

取り上げた理由は、次の2点であった。

- ・簡単に演奏することができ、音色が揃いやすい。また、音が大きくて体全体に響くような音である。
- ・今年度入学したD男以外の児童にとって太鼓は好きな楽器の一つであった。



「太鼓は楽しいね」

そこで、20分間の朝の活動として、20日間、毎日続けて取り組んだ。また、この活動を活かし小学部の劇の中でも太鼓の演奏に取り組んだ。活動を繰り返しているうちに、だいに楽しめ、劇の中でも生き生きと取り組む児童の姿が見られるようになった。

表-8 太鼓の演奏に対する児童の実態、教師の支援、活動の様子

	児童の実態	教師の支援	活動の様子
I子	4年間、中学部の太鼓の演奏を見ている。打楽器が好きである。リズムの模倣は難しいが、拍打ちができる。	自由に演奏する場を作る。本児の好きな曲を教師が歌いながら一緒に演奏する。	太鼓のばちを持つとスムーズに移動でき、曲に合わせて楽しそうに拍打ちができた。
O子	4年間、中学部の太鼓の演奏を見ている。打楽器が好きである。模倣は難しい。自分なりの速さで拍打ちができる。	I子と演奏する場を作る。O子の速さに合わせながらI子の好きな曲を歌い、一緒に演奏する。	朝の活動の時間は先頭になって練習に行った。舞台では、嬉しそうに太鼓の演奏をした。
G男	昨年、中学部の太鼓の演奏を見ている。曲に合わせて、打楽器を自由に演奏するのが好きである。模倣は難しいが、拍打ちができる。	自由に演奏する場を作る。G男の好きな曲を歌い、本児なりの打ち方やリズムを認め、できたらほめる。	自分もやれたという満足感にあふれていた。ほめられたことで自信が持て、生き生きと活動できた。
	打楽器が好きで、リズムの模	今までに覚えたリズムや	「太鼓の練習に行こう」

B 男	倣ができる。太鼓も好きで、見ると寄っていく。太鼓の皮の振動を触って喜ぶ。今年度、校外で太鼓の練習をし、夏に数回の発表をした経験を持つ。	校外で本児が覚えた太鼓のリズムを教師も演奏する。演奏の後はほめる。太鼓に触ったり、自由に演奏する時間も取る。	というと、にこにこした表情で移動した。劇練習では、太鼓の演奏を楽しみにしながら劇参加ができた。
E 子	鈴などの打楽器にはあまり関心を示さないが、太鼓には強い興味を持っており、夏祭りでも演奏した経験を持つ。長期欠席のため、文化祭の1週間前から本番の練習を始めた。	今までに聞いて覚えたリズムや、学習したリズムなどを自由に演奏する場を作る。本児なりの速さとリズムを活用する。演奏の後はほめる。	太鼓を自由に演奏して楽しんだ。また、ほめられたことで、自分の演奏に自信が持て、劇の中での太鼓演奏でも生き生きとできた。
N 男	5年間、中学部の太鼓の演奏を見ている。一昨年は太鼓を使った学習をしており、太鼓の演奏の楽しさを知っている。簡単なリズムの模倣ができる。	今までに聞いて覚えたリズムや、学習したリズムなどを自由に演奏する場を作る。簡単なリズムを教師が演奏する。	教師の簡単なリズムを模倣することができ、満足していた。劇の中でも、教師や友だちと一緒に演奏できた。
D 男	今年度初めて、太鼓の演奏をする。まだ太鼓の楽しさがわからず、太鼓が置いてある場所まで行くことにも抵抗がある。慣れた打楽器は好きで、拍打ちができる。	2回目は、太鼓を教室に運び入れて、友達の演奏を見る機会を作る。教師も一緒に楽しみ、太鼓の演奏の楽しさを共感するようにする。	友だちの演奏を見たことで自分も演奏してみたいとなった。自由に演奏を楽しんだ。劇の中でも太鼓の演奏になると自主的に活動した。

④反省と課題

- ・本学級のように一人ひとりの楽しめる活動が個々バラバラで、周りの人の活動に興味を示しにくい児童の多いクラスにとっては、友だちと一緒に活動することを楽しんだり、協力してやりとげた喜びを持ったりすることをねらった活動は難しい。しかし、題材の選定と支援の工夫によって、一人ひとりの楽しめる活動や個々の児童のよさを活かしながら一緒に学習することができ、少しは協力してやりとげた喜びを持つことができた。
- ・一人ひとりに応じた題材の選定には、より深い児童理解と心理特性の把握が必要である。今後もより個々のよさや特性の理解に努め、一人ひとりの実態に応じた題材の選定と支援の工夫に取り組んでいきたい。
- ・7人の児童に3人の担任の良さを活かしながら、一人ひとりの興味関心や発達課題をしっかり考慮してグループ分けを行い、効果的な学習展開を進めていきたい。
- ・自己表現力が十分発達していない児童の多いクラスでの教師の役割は大きい。児童と同じ立場に立って児童の思いを汲み取り、ともに活動する教師の姿勢が大切であると感じた。

(山根純子)